

<MVP:最高の笑顔で働く社員>

## 頼まれごとは 試されごと

このコーナーでは、自覚しい活躍をした社員や将来有望な社員を顕彰します。第3回目は、企画部主任の田島真一(たばた・しんいち)さんです。

2004年9月、以前から興味ある会社だと思っていたところ、企画部の河野部長とのご縁で入社させていただきました。

現在、職務を遂行される上で心がけている一つは「頼まれごとは試されごと」。何事も受け身ではなく、自分のチャレンジする場、力を発揮するチャンスをもらったととらえ、取組んでいます。

それと、具体的な仕事では、この業種ではとりわけ求められるCSRの徹底です。また、「企画」という部署で会社の力になろうとするには、多角的な考察と先入観にとらわれず、柔軟な発想で臨んでいくことが大切だと思っています。

今の仕事に就いて最も良かったと思うのは、リサイクルが大前提の会社なので環境負荷の低減に直結していることです。例えば、埋立量を減らすことで水を守っているなど。

それと、お客様から「安心して任せているよ」と言っていた時は、嬉しくもあり、やり甲斐を感じます。

加山興業は創業50年の老舗にもかかわらず、ベンチャー精神に富んでいるのも魅力です。例えばベンチャー企業では比較的、任される仕事の領域が広く、組織の形や仕事の進め方のルールも固まっておらず、前例がない場合の改善、新規事業などを提案すれば、「やってみようか」と柔軟な対応となります。そういった土壌がある組織ですので、任される仕事は多岐にわたり自由にのびのび働かせてもらっています。逆に大変だなと思ったことは、通常はリサイクルは埋立

処理よりコストが多くなります。しかし、お客様によってはコスト、予算との兼ね合いがとれず、私たちの思いとは裏腹に環境に負荷がかかってしまう処理内容を選択せざるを得ない場合があります。

精進ですが大手企業のお客様との契約書作成の際に、廃棄法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)を全く無視した状態の契約を望まれる場合すらあります。本社で一括といったケースもあり、ご担当の方に納得していただけるまでが大変でした。

最後に今後の抱負ですが、まずは適正処理を継続していくこと。そして新しいリサイクルの研究と開発に取り組んでいくことです。新しい組織の構築、制度の整備など、さまざまな未知の領域にも果敢に挑戦していきたいですね。



## 廃棄物のことなら当社にお任せください!!

●WEBカメラ作動中! ●当社車両全てにGPS搭載!!



場内WEBカメラを使用しリアルタイムに廃棄物の処理工程をご確認頂けます!

見学随時受付中!



押出成形RPF燃料化  
処理能力192.96t/日



選別-6品目  
処理能力751.92t/日



焼却-12品目-  
サーマルリサイクル  
処理能力15.1t/日

木くず  
処理能力1051.44t/日

蛍光灯  
処理能力1.0t

とっても頑固なゴミ屋さん!!  
**加山興業株式会社** Industrial Wastes Disposal Co., Inc.  
http://www.kayama-k.co.jp  
E-mail info@kayama-k.co.jp

**豊川営業所・リサイクルプラント**  
〒442-0008 豊川市南千鳥2丁目1番  
TEL.0533-89-0375 FAX.0533-84-3759

## 地球のことを考える企業 加山興業(株) 欧州、そしてインドへも新たな一歩

### 当社、欧州視察団が 月刊「廃棄物」で紹介

加山興業は、地球全体の環境保全を常に考え、次世代の為にこの美しい地球に対し、環境負荷をこれ以上かけないようにするために、これまで創業より60年近くにわたり廃棄物処理、リサイクルの分野で実績を積んできました。21世紀へ入り次のステップとして、これまで蓄積してきた廃棄物処理やリサイクルに関するノウハウを活かし、地球環境の保全、そして人類の持続的発展を見据えた自然エネルギーや再生可能エネルギーを利用することによる天然資源の枯渇の阻止に貢献したく考え、行動を続けています。

昨年5月には、欧州視察団を編成。イタリアのミラノで開催された「自然エネルギー展」を視察し、特に欧州の進んだ風力エネルギー開発の実情を学びました。また、東・中欧における自然エネルギーへの将来的な投資の可能性を調査するためセルビアも訪問しました。この模様は、現地駐在のジャーナリストである片野俊氏により、月刊「廃棄物」の2008年3月号・4月号で紹介され、反響を呼びました。

また、欧州のみならずアジアにも目を向け、毎日朝アイ・ビーの主催により2009年2月12日~14日にわたり、インドのニューデリーで開催される「2009イン

ド国際包装&環境シンポジウム」への出展も決定しました。

インドは、年収2000~3000\$以上の中間所得層が総世帯の3割弱(3億人)を占めるといわれており、2010年までに5億5000万人に達する見通しです。また、総人口の54%を占めるのが25歳以下で、経済発展の原動力となっている「青年の国」です。

「地球のことを考える企業」である当社が、大きなアジアの友人「インド」と、環境を通じた新たな交流の一歩を記します。



(上)「2009インド国際包装&環境シンポジウム」の会場「インド・ニューデリー・エキスポセンター」  
(下)RCCを訪問した視察団一行





当社の加山順一郎取締役が、昨年10月のRPF工場の火災事故、そして再起への道のりについて、週刊「循環経済新聞」のインタビューを受け、2008年4月14日号に記事掲載されました。ここで、その全文を紹介します。

## 工場火災から完全復旧 稼働効率は事故前上回る

加山興業株  
取締役 加山 順一郎

加山興業株(愛知県豊川市、加山昌弘社長)は、2007年10月3日夜、自社のRPF工場(処理能力/押出成形=1日当たり192.96t/d)で火災が発生。結果、翌日午前7時前に鎮火したものの全焼し、同工場棟を失った。以降、事故のショックを跳ね返し、焼け跡から急ピッチで復旧作業を進め、08年1月には本格的な再稼働へと漕ぎつけた。今回は、火災発生の要因、そして事故を教訓として、どのような改善を図ったのか、同社の加山取締役と話聞いた。

### 産廃施設全体に通じる危険要素

一昨年、火災の一件を聞き大変驚きました。日頃、工場内の作業管理には神経を使われていたに関わらず、なぜあのような火災が発生したのでしょうか。  
加山 当時、RPFの生産は効率アップを目標に掲げ、早番と遅番の2交替で勤務していました。ちょうど出火した時間、工場内では従業員が一人で作業をしていました。エンボでヤードスペースを整理していたところ、突如としてキャタビラーの下から火が出たと報告を受けてます。

一RPFというと、保管中の自然発火などがすぐ頭に浮かびますが、予想外ですね。

加山 恐らく、ライターやスプレー缶のような何か発火性の廃棄物が混入しており、詰みつけたのではないかと推測されます。

一発火から延焼へ至った要因は何だったのですか。

加山 従業員が1人では、消火活動にも自ずと限界

がありました。いくら整理していても、作業ヤード内の床面には廃棄物が存在します。それらにまず燃え移り、あっという間に一時保管していた他の廃棄物へ延焼し、建物全体へと広がりました。わたしも一報を受け、出火から5分後には現場へ駆けつけましたが、もはや火の海で手のつけられない状況でした。ただ、従業員が無事だったのが不幸中の幸いでした。

一防火設備は、うまく機能しなかったのですか。

加山 通常、火災発生の確率が高いと考えられる、ビットや破砕機の部分には消火設備を付帯していたのですが、機械のない作業ヤード部分は想定外でした。

一作業ヤードでの、異物による発火は、RPF施設のみならず、産廃施設全般に通じる危険要素ですね。

加山 はい、だから私どもの体験が少しでも業界のお役に立てばと思い、機会あるごとにお話しています。

### 消火設備に守られた心臓部分

一しかし、復旧も速やかでした。全焼から約1ヵ月で再稼働に漕ぎ着けられました。一般的にはもう少し時間がかかりそうにも思うのですが。

加山 先ほどお話ししたように、機械部分は消火設備を付帯しており、少なくとも心臓部分は守られたので、まだ助かりました。

一再建に当り、新たにどのような対策を講じられましたか。

加山 今回の火災を教訓に、防水タンクからの配管を工場全体に巡らして、どこにでも散水できるようにしました。

一人員体制も見直されたのですか。

加山 操業時間を短縮し、夜は9時までとしました。遅番、早番とも各2人ずつの体制にし、生産効率もアップしました。

一現状の生産量は?

加山 1ヵ月当り500~600tで、稼働時間を減らしたにも関わらず、ほぼ火災前に近いレベルまで戻りました。今後は、750tを目標に、安全・安心の維持を大前提とし、さらに効率化を推し進めていきたいと考えています。

一本日はお忙しい中、貴重なお話、ありがとうございました。

完全復旧、再稼働したRPF工場

